

町総合計画の着実な

報告 議会の動き



清算が待たれる四季の郷



土地区画整理組合解散に向け 事業計画を2年間延長

■ 鮎貝まちづくり事業
調査特別委員会報告

鮎貝まちづくり事業は、平成14年に事業計画が策定され、文化・交流・人づくりをコンセプトに、複眼都市構想のもと、鮎貝地域の歴史・文化に配慮し、荒砥橋架け替えも念頭に置き、川西、川東の交通網も確保するいわゆる白鷹町の総合的な発展を目指し、事業を展開してきた。

■ 大規模養豚場悪臭
問題特別委員会報告

悪臭は発生しないとしてスタートした施設であったが、住民の許容範囲を超えているとして、議会への請願という形でこの特別委員会が設置された。委員会としては問題発生から7年以上も経過した中で解決に至らなかった理由を把握する必要から、調査や聞き取りを行った。

今般、区画整理組合は、宅地等の販売状況に鑑み、平成22年度末の清算行為を2年間延長して対応することとした。本町の発展のために、未来を眺望し、先祖伝来の大切な土地を提供していただいた地権者たる組合員の心情を思うとき、町当局も一体となって推進してきたことや、本町も区画整理地内の土地を保有する組合員でもあることを踏まえ、町としても2年後の組合清算時には、全町民が納得のいくものとして成功させなければならない。

騒音・悪臭は発生させないとした確約書の協定についての信憑性や今後の対応策等を把握すべく参考人招致を含め委員会を開催した。しかし、聞き取りを行った事業者の返答については、他への転嫁や不明に終始してのを得ないものであった。かつ経緯を十分に把握していると思われる参考人の欠席も残念であった。事業者に向き姿勢もうかがわれることから、住民と行政当局と事業者が十分に話し合い、解決に向けて取り組んでいく必要があることを委員会として確認した。